

1 年次用

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
数学 I	必修	3	1	普通科

科目の概要	・数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や法則を理解する。 ・事象を数学的に解釈し，処理する技能を身に付ける。 ・命題の条件や結論に着目し，数や式を適切に変形する力を養う。 ・図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。 ・関数に着目し，事象を的確に表現し，その特徴を表，式，グラフを関連付けて考察する力を養う。 ・データの散らばりや変量間の関係などに着目し，分析を行い，問題を解決し，判断する力を養う。			
教材名	教科書	改訂版 数学Ⅰ（数研出版）		
	副教材	改訂版 4STEP 数学Ⅰ＋A（数研出版）		
担当者	佐藤 樹也 ・ 加藤 文子 ・ 山本 裕史 ・ 塙 守浩			
学習到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
学習方法	各単元ごとに、以下の要領を基本に、自立的、積極的に予習・授業・復習に取り組む。 ①予 習：教科書を読みどんな内容を勉強するか把握し、理解できないところを確認する。 ②授 業：理解できなかった部分をしっかり聞き、演習する。 ③復 習：傍用問題集で演習し習熟する。 ④テスト：各単元ごとにテストを実施しそれに向けて復習し学習内容を定着する。			
評価基準と 評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	課題の取り組み状況 授業に対する姿勢 テストに向けての取り組み 自己学習分析
	A	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70.0～100.0	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70.0～100.0	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70.0～100.0
	B	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30.0～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30.0～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30.0～69.9
	C	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	第 1 章 数と式 第 1 節 式の計算	1. 多項式 2. 多項式の加法と減法および乗法 3. 因数分解	9	一斉テスト
5	第 2 節 実数	4. 実数 5. 根号を含む式の計算	8	
	第 3 節 1 次不等式	6. 1 次不等式 7. 1 次不等式の利用	8	
6	第 2 章 集合と命題	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	7	前期中間考査
7	第 3 章 2 次関数	1. 関数とグラフ 2. 2 次関数のグラフ 3. 2 次関数の最大と最小 4. 2 次関数の決定	1 9	一斉テスト 夏休み明けテスト
8	第 1 節 2 次関数とグラフ			
9	第 2 節 2 次方程式と 2 次不等式	5. 2 次方程式 6. グラフと 2 次方程式 7. グラフと 2 次不等式	1 4	前期期末考査
10	第 4 章 図形と計量 第 1 節 三角比	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	1 1	一斉テスト
11	第 2 節 三角形への応用	4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	1 7	後期中間考査
12	第 5 章 データの分析	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. 2 つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	1 2	